

新刊紹介



建設人 ハンドブック 2019年版 建築・土木界の 時事解説

編集：(株)日刊建設通信新聞社
発行：(株)日刊建設通信新聞社
仕様：新書版 220ページ
定価：800円(税別)

(株)日刊建設通信新聞社はこのほど、『建設人ハンドブック2019年版——建築・土木界の時事解説』を発刊した。本書は2004年から毎年発行しているシリーズの最新版である。

19年版は巻頭で「働き方改革」を特集している。わが国全体の生産年齢人口が減少するなか、建設業の担い手は概ね10年後に団塊世代の大量離職が見込まれていることからインフラ整備や災害対応、メンテナンスを担う建設技術者・技能者が大幅に不足し、建設業のみならず国そのものが立ち行かなくなる可能性がある。そして本年6月の働き方改革関連法の成立により、2024年4月より建設業に時間外労働の罰則付き上限規制が適用される。

これらに対処するには生産性の向上と働き方改革が不可欠である。建設業の元請団体では、

残業時間削減の目標数値や達成時期などを盛り込んだ計画や基本方針などの策定が相次ぐなど「オール建設業」での取組みが加速している。なかでも日建連は他団体に先駆け、昨年9月に「時間外労働の適正化に向けた自主規制の試行」を打ち出し、同年12月には「週休二日実現行動計画」を策定するなど、働き方改革の推進に向けた活動を積極的に進めている。

本書では、建設業の働き方改革に関する最近の動向を簡潔にまとめている。

この他、建設市場の動向、企業経営のトレンド、全国の注目プロジェクト、業界ランキングなど最前線の情報を通じて、新人からベテランまで建設産業の「いま」が実感できるよう構成されている1冊である。